

首都圏広域地方計画中間とりまとめ(案) 意見対応一覧(有識者)

No.	委員名	指摘箇所	意見概要	対応箇所	対応(案)
第16回有識者懇談会ご意見					
16-1	森下委員	資料3	・概要版の各プロジェクトのさし絵に関しては、見づらい印象はあるが、仕方が無いのか。	概要版	ご意見を踏まえ、一部図表を修正。 なお、本省指示により概要版は2枚から1枚に変更された。
16-2	森下委員	80	・観光産業に求められる変革の記載において、今は生産性が低いから何とかしろと言っても、“わがこと”として響かないのではないか。一時的な観光客の増減に左右されずに新たな発展モデルの構築を、というニュアンスを加えてほしい。	P81-L22	ご意見を踏まえ、以下の通り修正。 「今後の我が国の観光の復活に向けては、単なるコロナ禍前への復旧ではなく、コロナ禍前とは少し異なる持続可能な形での復活を図ることが求められる。そのためには、 観光入込み客数の増減に左右されない 「持続可能な観光」、「消費額拡大」及び「地方誘客促進」をキーワードに、これまで以上に質の向上を重視した観光へと転換していくことが必要である。」
16-3	森下委員	134	・圏域内外との交流・対流拡大に向けた受入環境の整備、情報発信の項目では、第2のふるさとづくりが触れられている。しかし、「四方よし」をめざす観光文化プロジェクトでは記載されていない。二拠点居住や関係人口に深く関わるのでコンセプトを残してほしい。	P136-L3	ご意見を踏まえ、以下の通り修正。 「地域の特性を活かし「旅行者・産業・地域・環境」の四者がハッピーになる“四方よし”の観光を実現するとともに、 第2のふるさとづくりなどを通じて新たな国内交流需要の掘り起こしを図る。そのため、人が集まり、働き手になるよう、体制づくり、コンテンツの育成・強化、滞在・移動環境の整備や情報発信を通じ人が惹きつけられる空間づくりを目指す。 」 【参考】 「第2のふるさとづくりプロジェクト」中間取りまとめ(骨子概要) https://www.mlit.go.jp/kankocho/seisaku_seido/kihonkeikaku/kokunaikoryu/kaitaku/dai2furusato/furusato/kaigi.html
16-4	柴崎委員	12	・人材育成について加筆いただいたが、社会人の学び直しも大学ではやっていこうとしている。そうしたキーワードを入れられないか。	P58-L36	ご意見を踏まえ、以下の通り修正。 「デジタル技術も上手く活用しながら、リ・スキリングを実施し、労働力の補完と効率を高め、成長分野(より付加価値の高い業種・業態)への労働力の再配置を進め、産業全体での労働生産性向上を進めることが重要である。 産業界や社会のニーズに対応した実践的なプログラムの開発・拡充や、リカレント教育のエコシステム構築が、そのための車の両輪となる。 」
16-5	柴崎委員	-	・例えば空港でいうと、羽田空港については書かれているが、成田空港についても、臨空都市として住みやすくなるような記載はあるか。		成田空港に関する記述は、ご意見の視点も含め各構成機関と調整を行った結果、現状の記載となったものである。
16-6	森下委員	131	・成田空港について、構成機関と協議されたとのことだが、成田国際空港株式会社が色々な取組をされており、羽田と成田が力を合わせてハブとして対抗していこうということだと認識している。物流だけでなく人流の玄関にもなる。人の確保など前向きな明るい話なので、首都圏としてどう扱っていくのかという視点はないか。		成田空港に関する記述は、ご意見の視点も含め各構成機関と調整を行った結果、現状の記載となったものである。

No.	委員名	指摘箇所	意見概要	対応箇所	対応(案)
16-7	竹内委員	資料3	・ 概要版の1枚目、“グリーンメトロポリス”の実現プロジェクトについて、目的が食料、エネルギーだけになっているが、「緑豊かな環境を確保」ということを入れられないか。	概要版	ご意見について、概要版が2枚から1枚に集約されたことに伴い、目的に関する記載などを省略させていただいた。
16-8	竹内委員	96	・ 本文に、「環境への配慮はもはや経済と対立するものではなく、経済と両輪である」ということを入れてもらえないか。	P6-L1 P46-L28 P96-L28	ご意見を踏まえ、以下の通り修正。 「・気候 危機への対応 については、脱炭素型産業への構造転換や、地域や暮らしの脱炭素化を総合的に進めるとともに、気候変動による国土への悪影響を最小化するため、気候変動を前提とした国土利用・管理など、気候変動適応策を推進することとされている。」 「・人間の活動によりもたらされる気候変動や生物多様性の損失に対応して、カーボンニュートラルや ネイチャーポジティブ の実現をはじめ、我々の社会の土台となっている健全な自然環境に対して、社会経済活動による過度な負荷を減らし、維持・回復させることで、 持続可能な経済成長やそれを通じたWell-beingの向上を目指す必要がある。 」 「・ネイチャーポジティブについて、健全な自然環境は、生態系が有する多様な機能を十分に発揮し、気候変動、 生物多様性、防災、人間の健康等 の様々な社会課題の解決に貢献することから、「自然を活用した解決策(NbS)」が求められる。」
16-9	竹内委員	103	・ 本文の「多様なみどりの保全・創出」に、具体的な緑の役割として、気温低減効果、雨水貯留浸透、生物多様性の保全、歴史文化の継承、人に安らぎを与える、美しい景観を維持する、CO2の固定をして大気を浄化する等、重要な役割を果たしていることをどこかに入れてもらえないか。	P104-L5	ご意見を踏まえ、以下を追記。 「・ みどりは、土砂災害防止や土壌保全、水源の涵養、保健・レクリエーション、地球温暖化の防止、生物多様性の保全、快適な環境の形成、文化の育成など多面的な機能を有しているとされる。 」 【参考】 林野庁「森林の機能を活用した「緑の国土強靱化対策R2.9 https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/resilience/dai56/siryou5.pdf
16-10	竹内委員	103	・ 本文の首都圏におけるみどりの現状のところに、担い手不足による耕作放棄地や、荒れた里山、放置された植林などを入れていただけないか。	P104-L14	ご意見を踏まえ、以下を追記。 「・ また、農山漁村から都市部に至るまで、農林水産業等により支えられてきた里地里山の荒廃による美しい景観の喪失や、長い営みの中で培われてきた自然資源の管理、利活用に係る知恵や技術の喪失が懸念される。 」 ・海域においても、窒素やリンといった栄養塩類の偏在による水産資源への影響や、開発等による藻場・干潟の減少が生態系を含む海洋環境へ与える悪影響が課題となっている。 ・ これらも踏まえ、地域の状況に応じた対応が求められる。」 【参考】 「国土の管理構想」(本文)P18 https://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/kokudoseisaku_tk3_000130.html

No.	委員名	指摘箇所	意見概要	対応箇所	対応(案)
16-11	家田座長	103～104	・「みどりによるネイチャーポジティブやカーボンニュートラル等への貢献」は日本語として不適切ではないか。やはり言葉だから入れる、というだけでなく、「カーボンニュートラルの〇〇に」などキャッチーになると良い。 ・また、「ローカルコモンズ」は、地域共有の緑だけではない。あえてカタカナで入れないといけないものなのか。	P5-L12 P6-L8 P104-L20 P105-L16 P151-L9 P156-L4	・ご意見を踏まえ、「カーボンニュートラル」「ネイチャーポジティブ」の意味を、本計画でそれぞれ最初に用いる左記の箇所に脚注で追記。 ・そのうえで、ご意見を踏まえ、当該箇所のタイトルを以下の通り修正。 「(みどりによるネイチャーポジティブやカーボンニュートラル等の実現への貢献)」 ・生物多様性の損失や気候変動をはじめとした地球環境への世界的な危機感の高まりから、ネイチャーポジティブやカーボンニュートラルの実現を目指す中、みどりの重要性が更に増している。」 ・また、「地域共有の緑」の後の「(ローカルコモンズ)」は削除。(左記の3箇所)
16-12	竹内委員	103～104	・ここは緑の役割をもう少し語っていただきたいし、現在の書き方では伝わりにくい。カタカナ・専門用語が多く、この分野に詳しい人にしかわからないので、わかりやすくしていただきたい。	P104-L5	16-9及び16-11と共通
16-13	赤井委員	103～104	・カーボンニュートラルについて、首都圏の7割は森林なので、温室効果ガスの吸着面も捉えてこういう貢献ができるような書き方だとわかりやすいのではないか。	P104-L27	ご意見を踏まえ、以下のとおり修正 「・2050年カーボンニュートラルに向けた二酸化炭素吸収源対策としては、みどりによる吸着に加えて、藻場・干潟等の海洋生態系により蓄積される炭素(ブルーカーボン)が世界的に注目されており、ブルーカーボン生態系の保全・再生・創出を推進する必要がある。」
16-14	竹内委員	資料3	・首都圏計画は空間計画なので、地図を載せてほしい。概要版もそうだが、本文も文字ばかりなので、これから一般の方に分かりやすく打ち出すことを考えると、市民に向けた簡単な絵やコラムを入れて欲しい。	P3図1 概要版	ご意見を踏まえ、左記の箇所に「2050年の首都圏(将来像)イメージ」の図を掲載。また本文中には、4つの危機それぞれに対応したデータ図表も掲載。 そのほか、別冊としてデータ集を整理している。
16-15	家田座長	資料3	・地図表現については、竹内委員と同感だ。地図上に表現することは基本的に重要である。前の方に見開きで、やることが全部書き込まれているような大きい図を入れて欲しい。竹内委員が指摘されたのは、マクロだけでなくもう少し細かいスケールの図も、ということだと思う。	P3図1 概要版	16-14と共通
16-16	竹内委員	資料3	・“グリーンメトロポリス”の実現プロジェクトについて、できれば美しい緑の写真をいれていただきたい。	概要版	ご意見を踏まえ、図表を修正。
16-17	赤井委員	資料3	・ポジティブなことは本文に書いてあるとのことだが、本文を全部読む人はほばいない。概要版が一人歩きしてしまうことを考えると、現行計画とどう違うのか、など読んだ人が分かるようなデザインを考えたい。内輪の理屈だけだと、首都圏は暗い、となってしまうかねない。本省から言われているのかもしれないが、事務局で考えてほしい。	概要版	ご意見について、概要版が2枚から1枚に集約されたことに伴い、現状・課題を左上に配置し、産業等の強み、課題に対する将来像・目標、広域連携PJの事業例を右側や下側に配置した。

No.	委員名	指摘箇所	意見概要	対応箇所	対応(案)
16-18	家田座長	資料3	・ 様々な危機に真剣に対応しなければいけないというのが「危機感の国民的共有に基礎を置き」というところなので、現状は暗いのだから記述が暗くなるのは当然だ。逆にP2は明るい。例えば、P1左側に現状の暗いこと、右側に明るい対応を書けると良い。	概要版	16-17と共通
16-19	布施委員	資料3	・ 概要版の災害リスクエリアの重ね合わせ図は、スケール感的に、一般の読者には危機感を感じにくい。	概要版	ご意見について、概要版が2枚から1枚に集約されたことに伴い、当該図を省略させていただいた。
16-20	布施委員	資料3	・ DXによる統合的な国土マネジメント実現プロジェクトについて、DXはデータを活用してどのような変化が起きるのが重要。今の図表では旧来の「デジタル化すれば良い」と受け取られてしまわないか。	概要版	ご意見を踏まえ、3D都市モデルデータを活用した、こどものまちづくりイベントの実施状況の写真に修正。
16-21	赤井委員	46	・ Well-beingについて、資料で今後の議論を見守るとしているが、6月に公表された、政府の骨太の方針では具体的に書かれている。4つの危機への対応に共通する基幹的な考え方に様々な危機への対応が書かれているが、これらはWell-beingという枠組みの中で捉えることができるので、もう少し考えてほしい。	P9-脚注	ご意見を踏まえ、左記の箇所に以下を加筆。 「内閣府第1回Well-beingに関する関係府省庁連絡会議 資料2によると「確立された定義はないが、身体的・精神的・社会的に「良い状態」を表す(慶応大学・前野教授)といった定義例にあるように、非常に幅広い概念である。」 【参考】 https://www5.cao.go.jp/keizai2/wellbeing/action/20210730/agenda.html
16-22	赤井委員		・ Well-being を項目として明示的に立てていただけるとよい。エッセンシャルワーカーの熱中症予防や安全確保、処遇の適正化などに関して、例えば熱中症予防で近くに病院がある、ということなどもWell-beingだ。	P46-L23	ご意見を踏まえ、以下の通り修正。 「(包括的な“ゆたかさ”を追求する価値観への「転換」 ～Well-beingの向上と人間らしさの尊重～」
16-23	赤井委員		・ 箇所によって意味が異なるWell-beingが混じっているので、精査いただきたい。	P9-脚注	16-21と共通
16-24	家田座長	46	・ Well-being については、「包括的な“ゆたかさ”を追求する価値観への「転換」」などを書いてある。 ・ ここに日本政府のスタンスを記載するなど、ここを改善するというのも1つの手ではないか。	P9-脚注	16-21と共通
16-25	家田座長	—	若者からの意見把握について、何か良かったこと、新しく分かったことはあったのか。結果と、有効だったことを書き込んでほしい。	P160【コラム2】	ご意見を踏まえ、左記の箇所に、首都圏で暮らすことへのイメージや希望について、若者へのインタビューを行った結果をコラムとして掲載。
16-26	家田座長	資料2-4	・ 市区町村に対する意見聴取で市区町村から回答が4分の1しかなかったことについて真剣に考える必要がある。計画策定後にフォローアップをするが、関心のない自治体が4分の3もいる中でフォローアップをしても意味がない。計画に書かれていることが、自治体に対して響いていないことを真剣に考えないといけない。これは首都圏だけの問題ではないので、本省を含めて問題提起をして欲しい。		ご意見を本省に申し伝える。

No.	委員名	指摘箇所	意見概要	対応箇所	対応(案)
16-27	家田座長	資料2-4	・各地方の繁栄のためにやっているのに、本当に関心は無いのか、ということが分かるようにして欲しい。		市区町村の関心を高めるためにも、市区町村が計画のどこに関心があるか、計画に対してどのくらい「いいね」をもらえるかを調べるなどの工夫ができないか、法定手続の計画提案とは別に、首都圏独自に検討したい。
16-28	赤井委員	157	・計画の評価検証と見直しについて、現行計画ではある意味やりっぱなしだった。都市再生緊急整備地域のモニタリングのように、EBPMについて現在ではできる術がある。進捗を把握して、定期的に見直しをするといったことは書けないか。KPIの第1階層、第2階層に相当すると思うので、一考をお願いしたい。	P161-L10 及び脚注	ご意見を踏まえ、以下の通り修正。 「 政府全体のEBPMの強化を踏まえ 、本計画の3つの基幹的考え方、4本の柱ごとに指標を設定し、毎年度データを取得してモニタリングを実施して指標値等の動向を検証することにより、…」 また脚注に以下を加筆。 「内閣府「経済財政運営と改革の基本方針2025」(2025年6月13日閣議決定)では、政府全体のEBPMの強化について記載されている。また、Well-beingの高い社会の実現に向け、働く、学ぶ、健康、子育て、地域の生活に関連する基本計画や大綱において、生活のWell-being改善につながる実効的なKPIの設定を進めるなどとともに、Well-beingの把握を継続・強化するとされている。」
16-29	赤井委員	資料3	概要版にも、フォローアップのことを書けないか。	P161-L10 及び脚注	16-28と共通
16-30	家田座長	157	指標を何にするかではなく、まずは精神論として「フォローアップにこそDX化を」ということはぜひ書き込んでほしい。	P161-L10 及び脚注	16-28と共通